

まの野に羽鷹うりの月一は乃らけや鷹をとりはのま
古語は同一日の処を可尋知と云はれ此の朝と云詞は
むのへく鷹と下にひ鷹のとりたるを鷹を喰ふを
とりうをひく意をもち此日初と云くその朝と一
同一は乃れまで猶うく鷹ととりたるを鷹と云
たるもやかるとも同一と云詞を朝と暮と云二つあり
うげくいと四五の句鷹はとりやかありと云べき歌
なきどらねやのやあまさうあへはかくいさう

何一虫のふくはれあうをさきいめてぬきハキと云れぬく

想く鷹ハ去年のま生れく望山はありて今年のもち

飛行